

	児童の実態	改善プラン	改善プランの評価方法
３年	①課題理解が不十分でも多くの児童は意欲的に制作している。 ②多くの児童が課題の始まりから、制作、振り返りと見通しがもてるようになってきたが、作業と片付けの切り替えがまだ難しい児童も一部にいる。 ③制作意欲はあるが、知識量や考えの柔軟性などから、一人一人の想像力や表現力に差がある。	①学年の力に応じた課題を設定することで、児童がそのねらいを理解して主体的に作品制作に取り組めるようにする。 ②平面では、筆やパレットなど、立体では、はさみ、のり、カッターなどが十分使えるよう課題に組み入れて制作できるようにする。 ③発表会で友達の作品を見たり、考え方を聞いたりして、自分の見方や感じ方を広げる。	①児童の取り組む姿勢や作品、掲示での第三者の感想で評価する。 ②振り返りカードによる自分の作品作りについての振り返りや、友達同士の鑑賞の感想から評価する。 ③時間を計り評価する。同時に児童が説明内容を、実践できていたかで評価する。
４年	①一部に課題理解が難しい児童がいるが、多くの児童は制作することの喜びのもと意欲的に制作できている。 ②課題の始まりから制作、振り返り、発表と多くの児童がよくできている。また、友達の作品を見て、聞いて自分に生かそうとしている。 ③新しい道具への使い方の理解が児童によって差がある。	①児童の課題理解力や表現力の差に対しては、個別指導を重視して個々の児童に関わり、児童の発想を引き出して解決を図る。 ②課題理解、児童個々による表現制作、完成、振り返りと一連の活動に見通しを持たせる。 ③材料や道具、色彩やその特性についての学習を行う。そして、そこから児童の思いの具現化を図り、達成感や制作の喜びをもたせる。	①制作過程の姿勢や、鑑賞カードでの振り返り、完成作品で評価をする。 ②毎回の授業で、進度を確認する。児童自身に見通しを聞き、その内容で評価する。 ③児童の感想文に、できればや楽しさ・難しさを数値化して書かせ自己評価を参考にする。
５年	①多くの児童が課題のねらいを理解し、意欲的に取り組むことができている。しかし、一部に集中力や学習の継続性に欠ける児童がいる。 ②制作の折に重要な道具の扱いを学んできた。 ③高学年として、さらに作業への見通しをもて、授業時間の使い方の向上をはか	①児童が主体的に課題解決を図り表現力豊かに制作できるようにする。それには、個々の児童の声を聞き、時には情報を与えてその実現を図る。 ②学年に応じた材料や道具、色彩やその特性についての学習を行う。そして、そこから児童の思いの具現化を図り、達成感や制作の喜びをもたせる。	①作品を作る過程の、児童の取り組む様子や、完成作品で評価する。 ②作品を作る過程の、児童の取り組む様子や、完成作品で評価する。 ③児童の感想文に、できればや楽しさ・難しさを数値化して書かせ自己評価を参考にす

	る。		る。
6 年	①課題理解力が高まり、それに合わせて想像力や表現力も豊かになってきている。ただ一部に学習意欲に欠ける児童がいる。 ②自分の作品への客観的見方が高まり、そのことから学習意欲を一層高める児童と下げる児童とに分かれてきている。 ③自分が社会や世界とどのように関わりながら、より良い人生を送るか考え始めている。	①時代的背景や学年の発達段階に合わせた課題を設定するとともに、児童はその課題解決による作品制作を行うことで表現の喜びを味わわせる。 ②自らを見つめ、理解し、自分が目指す成長と図工との関わりを課題解決による表現を通して理解させる。 ③自分と友達、自分と社会などとの関わりについて考える場を与え、自らの力で答えを導き出して、自分の行動に結び付けるようにさせる。	①アイディアスケッチでの発想や、計画表で判断する。作品や児童の鑑賞カード、第三者の感想から評価する。 ②作品を作る過程で、児童の取り組み様子や、完成作品で評価する。 ③児童の感想文に、できればや楽しさ・難しさを数値化して書かせ自己評価を参考にする。